



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第9号 NO. 009

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2016年8月6日

わかば学園地域防災拠点「HUG」講習会

地域の特性:横浜市旭区内37ヶ所の小・中学校を避難場所として、情報受伝達、防災資器材の備蓄等の機能を備えた地域防災拠点があります。わかば学園地域防災拠点は若葉台内にある小学校(わかば学園、若葉台小学校、旧西中学校)がそれぞれ地域防災拠点としての機能を備えています。

日 時 2016年(平成28年)8月6日(土) 13:00~14:30

会 場 わかば学園地域防災拠点

講 師 日本防災士会横浜支部役員(今井支部長、長沼副支部長、小菅幹事)

参加者 横浜わかば学園地域防災拠点運営委員:17名

日本防災士会横浜支部会員:7名(飛田、本田、白濱、渡辺、須山、山田、高頭)

研修内容

前回(3月27日)に初級HUGを実施していますので、今回はよりグレードアップしたHUG(避難所運営ゲーム)について中級・上級の講習になります。

一斑、6名の3班に分かれ、あと一斑は防災士だけの7名での講習になりました。

初めに

- ① 前回の復讐としてモデル小学校舎平面図での避難所の理想的な配置を説明。
- ② 避難所生活のルール(初動時)を各グループで考える。
短時間の時間的制約があるため講師が積極的に模範誘導しました。
- ③ 避難所開設時の部屋割り・配慮すべきものについて、各グループで考える。
適当な時間を図った上で、講師が模範誘導しました。
- ④ 最後に災害発生時要配慮者救出順位のゲームを講師が独自に作成した用紙を配布し、後日皆さんで行っていただくことをお願いして、その手順と注意事項をご説明しました。

【質疑応答】

Q1. 車での避難に対して避難所をして確保すべきか?

A. 避難場所が確保できるのであれば指定した方が良いのではないかと。ただし、エコノミークラス症候群にならないように配慮する必要がある。

Q2. 自宅で暮らしていて、地震等の災害時に防災拠点まで食料品等を取りに来られないような方には、自治会としてどのような措置をとればよいか?

A. 地域の民生委員や行政と協力して事前に把握し自治会で対応するのがプライバシー観点からも良いように思います。

Q3. 犬、猫や動物の避難について

A. 犬、猫その他の動物は避難場所には原則持ち込まない。屋外に動物の避難場所を設けてゲージの中に入れておく事が動物にとっては安心になる。

Q4. 避難所開設については誰が責任者?

A. 原則としては市町村の職員や避難所担当職員を派遣して開設。

場合によっては施設管理者(学校長、公民館職員)または自主防災組織代表者が開設できる。

しかし、今回の熊本県の益城町などの避難所運用・開設には地震の発生も夜間であり、余震も頻繁に発生していることから、行政側も大変混乱したと思います。避難所の開設までに相当な時間が掛かりました。そういうことを考えると今日のようなHUGを実施することが大事です。

その他

熊本地震の写真パネルを展示し、講師から展示写真について説明をしました。

[最後に自治会長]

今回のHUGは講師説明も良く、また、質疑応答も大変参考になりました。
有難うございました。

[今井支部長からコメント]

日本防災士会横浜支部といたしましても地域の防災フェア、講習会における講師の派遣、防災活動訓練等に積極的に参加して行きたいと思っております。

[講習会写真]

